

やさしさ

貸出備品でふれあいの場を

地域で活躍ふれあい活動貸出備品

穴栗市社協では、皆様からお寄せいただいた善意銀行預託金を「支部活用払出し」として、支部で受け付けた約1割を各支部で活用しています。

その内容は、各支部の地域福祉推進委員会で協議し、地域の特性を活かした活動に使われています。

山崎支部では、ふれあい活動への貸出備品を購入し、地域や自治会のふれあい活動や世代交流活動などに活用されています。この他にも、「子育て支援に役立ててほし



昨年度はカラオケセットやデジタルピンゴなどを購入。他にもいろいろなゲームがあります



い」と善意銀行に寄付いただいたキャラクターも、自治会行事や学校の文化祭などで利用され喜

ばれています。

ふれあい活動貸出備品は地域の資源です。自治会行事やふれあい活動にぜひ活用ください。

(山崎支部 森井裕矢)



スカットボールの風景「よう盛り上がった」9月は各地区や自治会で開催の敬老会でも活用されました

いのちのみや

一宮支部福祉委員研修会 福祉委員が熱心に学びました

「男性介護の話を生で聞き、その大変さを実感した」「介護には終わりが無いので、いろんな人の助けが必要」「福祉委員が地域の人のために話し合う場を持つことが大切」...

9月11日(土)、一宮保健福祉センターを会場に開催した「第3回一宮支部福祉委員研修会」での参加者の声です。

この日は、男性介護に焦点をあてた「当事者を支える地域づくり」をテーマに、中野剛志さん(山崎町)をお招きし、長年奥さんを介護されたお話や穴栗市男性介護者の会での取り組みなどをお話いただきました。

また、8月28日(土)には、「地域で福祉学習」をテーマに、聴覚障がい者の八木昌幸さん(一宮町)より、

自分自身の生い立ちから簡単な手話の指導など、障がいや「コミュニケーション」について学びました。7月31日から3回にわたって開催した福祉委員研修会。

今回の研修会で、福祉委員として、そして一住民としてできることを一人ひとりが学び、気づき、理解を深める貴重な機会となりました。

(本部・一宮支部 波多野好則)



「女性の介護も大変だが男性ではもっと大変。」
～グループ発表より～



穴栗市男性介護者の会では、世話人として活動されています